

令和5年度大阪府福祉基金地域福祉振興助成金地域福祉推進助成「事業評価」(事業概要)

団体名	社会福祉法人八尾市社会福祉協議会	総合評価 A	評価基準(総合評価) S(非常に高く評価できるもの) A(高く評価できるもの) B(一定の水準にあるが一部課題のあるもの) C(一定の水準にあるがかなり課題のあるもの) D(全般的に多く課題のあるもの)
事業名	民生委員活動へのICTの導入		
実施期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日		
助成(実績)額	444,059円		

事業概要	事業実績	事業を実施したことによる成果
①役員相互の連絡調整と事務局との連絡の円滑化を進めるためにLINEアプリの導入による情報共有の強化 (対象) 八尾市民生委員児童委員協議会の役員など19人 (内容) 自宅電話を避け、自身の携帯電話を公開する委員も増えている。家庭でのFAX所有率も下がってきていることから、委員への参考書類の提供が困難な課題があった。 その課題を解決すべく、LINEアプリを導入し、役員19人でのオープンチャットを開設し、随時、資料等を送付。	①役員相互の連絡調整と事務局との連絡の円滑化を進めるためにLINEアプリの導入による情報共有の強化 ◎LINEオープンチャットの活用 ・内容:会議資料の共有、会議の出欠、イベントや講座の随時案内、各委員からの連絡(地域イベントの案内、確認事項等) ・回数:月2回以上(随時) ・対象:八尾市民生委員児童委員協議会 役員 19人 主任児童委員 28人	●迅速な情報伝達 ・Ipadを購入し、よりLINEのオープンチャットを活用した委員が可能になり、迅速な対応ができるようになった。 ・主任児童委員の定期会議では、オープンチャットを使い、資料の共有が可能になった。 ●ハイブリット会議の実施 ・働いている方が多い主任児童委員の定期会議(月1回)にZoomを導入し、自宅や職場からの参加が可能となった。 ・Zoom導入とともに、夜間開催も取り入れ、参加率が上がり、委員同士の意見交換が活発になった。 ●会議参加者の増加 ・会議をハイブリッド形式にすることになり、これまで参加できていなかった委員が参加できる環境が整った。 ・以前では、参加者が固定化され、地区の偏りがあったが、まんべんなく委員が参加となり、意見交換が活発になった。 ●今後も継続した活用の検討 ・マニュアルを作成することにより、講師不在の中でも委員同士で自らセッティングが可能になった。 ・LINEオープンチャットの活用が定着化され、委員同士の活用(自身関わっているイベントの周知等)がより活発化になった。 ・今後もマニュアルを活用し、ハイブリッド会議等を継続し、ICTの普及を目指していく。
②部会の欠席者を減らし、意思疎通を円滑に進めるためにzoomを導入し、ハイブリッド型会議の試行 (対象) 八尾市民生委員・児童委員のうち、主任児童委員28人 (内容) 社会全体で会社員などの就業定年が延長していることから民生委員も働きながら活動している人が増え、特に主任児童委員の中で平日昼間の会議に参加しづらい人が増えてきている課題があった。 その課題を解決すべく、委員の参加率向上を目指しZoomを活用したハイブリッド会議を実施。また委員自ら運営できるよう、専門的なスタッフを招き、操作レクチャーを受けた(計7回)。	②部会の欠席者を減らし、意思疎通を円滑に進めるためにzoomを導入し、ハイブリッド型会議の試行 ◎ハイブリッド会議の実施 ・内容:依頼・連絡事項の伝達、委員による意見交換、日々の活動報告や事務局への質問等 ・回数:月1回(計10回、8・1月除く) ・対象:主任児童委員28人 ・サポート:Printコーディネーター 窄口 真吾 氏 ▼備品設置マニュアル(一部) 	